

第2回 郡上市男女共同参画推進審議会 要録

日 時 令和3年3月16日（火）午後1時30分から午後2時45分

場 所 郡上市総合文化センター4階第1大会議室

出席者 和佐田裕昭委員、谷口天馬委員、宮崎倫明委員、石山加代子委員、寺田健太委員
武藤里恵委員、古田弥生委員、古橋容子委員、末松みどり委員、山下優子委員
仲谷里美委員、岩見恒夫委員、河合香奈美委員

職務による出席 日置市長公室長、入木田企画課長、高田課長補佐、松井主事

《会議内容》

1. 開会（企画課長）

2. あいさつ

会 長：日に日に暖かくなり、そろそろ桜の開花が見られるかと、うきうきした気持ちになる。
この会においても、そのようなうきうきわくわくした思いをのせて、思ったことを発言して欲しい。よろしく願います。

市長公室長：本日は、昨年策定した第3次男女共同参画プランに基づく事業実施計画の報告をさせていただきます。今年度についてはコロナ禍につき、各課のイベントや行事、会議等が中止になったことも多かった1年である。その中でも一部はオンラインで開催するなど来年度に繋げる取組みを行うといった部署もあった。国では第5次男女共同参画基本計画が閣議決定され、計画の中には女性の登用、採用、防災における男女共同参画、地域における推進に加えてジェンダー主流化の重要性も掲げられている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、テレワーク導入の促進や多様な働き方の定着も掲げられている。市の男女共同参画に関する取組みについても、コロナ対策も含めて考えていく必要がある。忌憚ない意見を頂戴できればと思う。

3. 議事

（1）第3次郡上市男女共同参画プランに基づく事業実施計画の実績報告について

課長補佐：「参考資料」を説明

主 事：「資料①」「別紙①」「別紙②」を説明

<委員意見>

委 員：女性の活躍を応援するセミナー（別紙②）について、感想として「初対面がオンラインというのが、心理的距離を縮めにくい気がする」といったものが見られる。対面では休憩時間の雑談の中で交流が深まるということがあるが、オンラインだと自分の意見を自由に述べるのが難しい。これは我々も主催側として経験したことがあり、歯が

ゆい。オンラインに慣れれば変わってくるが、初回は工夫が必要である。

事務局：今回の女性の活躍を応援するセミナー「kokokara」は、常日頃から就労支援などを仕事としてやられている女性が集まった団体「RIBON」に委託している。ファシリテーターとして活動することも多く、上手くコーディネートをしていただいた。最初、初対面がオンラインで不安な中でも本音を引き出す工夫をしていただいた。

事務局：オンラインでは、参加者をグループに分けて少人数で交流することもできる。今回のセミナーでは、いくつかの回で交流する際にそういった工夫をした。実際に自分も参加したが、全参加者が集まる中では自分から意見を言えない人も、グループワークでは日頃の不安を打ち明けることができ、その不安解決のためにグループのメンバーで案を出し合うといったことも見られた。グループワークの際は、各グループに RIBON のメンバーが一人ずつ入り、コーディネートしていただいた。

委員：家族にも「kokokara」のチラシを見せたが、オンラインに抵抗感を感じていたようだった。「ウェビナー」というものでは、講師の話聞くだけの一方通行で参加者はカメラをオフにして気軽に聞けるので安心して参加ができる。また、その場限りではなく、Youtube 等で後日配信することで、その時予定が合わなかった人でも見ることができる。そういった工夫もできるのではないか。

事務局：セミナーの実施方法については、委託団体との打合せの中でも様々な課題が見つかったため、いただいたご意見も合わせて来年度の取組みの打合せで検討していく。また、今年度気づいた点として、「スマートフォンを持っているからといって、全員がオンラインに慣れているわけではない」ということがあった。そのため、来年度は「オンラインセミナーに参加するための講座」も検討している。

委員：今の話はとてもいいと思う。「オンラインセミナーに参加するための講座」は必要。自分もオンラインで会議等に参加する機会があるが、複雑で大変だった。ツールへの入り方から講座として行うのはとても良いアイデアだと思う。

委員：アナログに慣れている世代がまず分かるようにしていただけると、オンラインを活用したものも盛り上がってくるのではないかと思う。

委員：「日本電信電話ユーザー協会」では、積極的に無料でオンラインの研修会を行っている。そういったものも積極的に活用いただきたい。

委員：民間企業に対して様々な周知活動を行っているが、実際に郡上市全体と郡上市役所の育児休暇の取得率はどれくらいなのか。

育児休暇が取りにくいというのはまだある。制度的には取れても、何となく取りにくいというのが本音である。男性が育児休暇を取ると聞いて「すごいな」と思う感覚を無くしていなければならぬ。民間企業、市役所含めてそういったデータを一つの目標として掲げることも必要だと思う。

事務局：来年度第1回審議会にてそれらのデータを提示させていただくとともに、目標値としても実施計画に記載する。

委員：「kokokara」の参加者が大和地域が多いのはなぜか。

事務局：オンラインセミナーであり、開催地の影響は考えにくいので、はっきりした理由は分からないが、口コミ等で広がりやすかったのではないかと思う。

委員：自分は大和地域に居住しているが、なにかイベントがあると教えてくれる人が多い。口コミが広がりやすいコミュニティではある。

事務局：そもそもの参加者の母体数が少ないため、一概に「大和地域が多い」とははっきり言いきれない。

委員：対面での開催が可能だった場合、どこで開催する予定だったのか。

事務局：様々な地域を回りながら開催する予定であった。

(2) 来年度の男女共同参画推進事業について

主 事：「資料②」を説明

<委員意見>

特になし